

2016年7月2日

バングラデッシュにおけるテロ攻撃に関する安全保障理事会報道声明

安全保障理事会理事国は、20名以上のバングラデッシュ国民と開発職員を含む外国人の殺害および多くの負傷者をもたらした、ISIL（イラクおよびレバントのイスラム国／ダーシュ）がそれに対し責任があると言っている、2016年7月1日に、バングラデッシュのダッカで、行われた凶悪且つ卑劣なテロ攻撃を強く非難する。

安全保障理事会理事国は、被害者の家族、バングラデッシュの国民および政府並びに外国人被害者の国民および政府に対し、安保理の深い哀悼の意を表し、そして負傷者が速くまた十分に回復することを望む。

安全保障理事会理事国は、そのあらゆる形態および表現のテロリズムが、国際の平和および安全に対する最も重大な脅威の一つを構成することを再確認する。安全保障理事会理事国は、諸決議 2199 (2015) および 2253 (2015) に従って、テロリズム、テロ組織および個人のテロリストの資金調達を防止しそして抑圧するための措置を講じる必要性を強調する。

安全保障理事会理事国は、テロリズムのこれらの非難すべき行為の実行者、世話人、資金提供者および支援者を訴追する必要性を強調する。安保理理事国は、これらの殺害に責任を有する者が、責任を問われるべきことを強調し、そして全ての国家に対し、国際法および関連する安全保障理事会諸決議の下の自らの義務に従って、これに関連した全ての関連する当局と積極的に協力することを促す。

安全保障理事会理事国は、あらゆる形態および表現におけるテロリズムは、その動機そして何処で、何時また誰により犯されたものかにかかわらず犯罪でありまた正当化できないこと、そしていかなる宗教、民族、文明または種族的集団と関連づけるべきでないことをくり返し表明する。安保理理事国は、国際連合憲章および国際人権法、国際難民法および国際人道法を含む国際法の下でのその他の義務に従って、テロ行為により引き起こされた国際の平和および安全に対する脅威と、あらゆる手段により、闘う全ての国家の必要性を再確認する。